

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

I 会務運営

1. 総 会

第 57 回定時社員総会を令和 6 年 6 月 18 日（火）14 時 30 分から、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 72 名（うち委任状出席 38 名、議決権行使書出席 26 名）で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数（総代議員数 74 名の過半数）を充足しており、社員総会が成立した。

- 1) 令和 5 年度事業報告、同計算書類、令和 6 年度事業計画および同収支予算を報告した。
- 2) 任期満了に伴う理事の選任については、原案どおり理事 15 名を承認、可決した。
- 3) 任期満了に伴う監事の選任については、原案どおり監事 1 名を承認、可決した。
- 4) 6 名に名誉会員の称号を授与する提案を、原案どおり承認、可決した。

2. 理事会

(1) 定例理事会

定例理事会は合計 8 回ハイブリッド形式で開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- 1) 令和 5 年度事業報告、同計算書類、令和 7 年度事業計画および同収支予算を審議・承認した。
- 2) 会員の入退会を承認した。
- 3) 2025 年日本コンクリート工学会賞として、論文賞 3 件（受賞者 14 名）、技術賞 3 件（受賞者 12 名）、作品賞 4 件（受賞者 20 名）、奨励賞 6 件（受賞者 6 名）および功労賞 8 名を決定した。
- 4) 2024 年度コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。
- 5) 任期満了に伴う次期役員改選数および候補者を決定した。
- 6) 名誉会員候補者、終身会員およびフェロー会員を決定した。
- 7) 2024 年度助成金採択者を決定した。

(2) 臨時理事会

- 1) 臨時理事会を令和 6 年 6 月 18 日にハイブリッド形式で行い、前川宏一理事を会長に、田中久順理事、野口貴文理事を副会長に、入矢桂史郎理事を専務理事に選任した。また、役員の会務担当を決定した。

(3) 電磁的記録による決議

電磁的記録による決議を9月に実施した。処理事項は、次のとおりである。

- 1) 「端島(軍艦島)70号棟における補修試験施工に関する共通試験への参加企業募集説明会(オンライン形式)―参加募集―」に係る会誌会告原稿案

3. 支部長会議

支部長会議を令和6年10月3日、令和7年1月30日の2回開催し、各支部の事業計画、事業報告、収支予算等に関して審議した。

4. 登録関連事項

(1) 登記

- 1) 令和6年6月28日に、役員の変更登記(一部改選)および会計監査人の重任登記を完了した。

(2) 内閣府関係

- 1) 令和6年6月26日に、令和5年度事業報告および令和5年度財務諸表等の資料を内閣府に提出した。
- 2) 令和6年7月22日に、理事15名および監事1名の選任に係る変更届出書を内閣府に提出した。
- 3) 令和7年3月28日に、令和7年度事業計画および令和7年度収支予算書等を内閣府に提出した。

5. 委員会

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG 等	
1. 役員候補推薦・調整委員会	杉山 隆文	16	2	—	0
2. 選挙管理委員会	宇治 公隆	12	2	—	3
企画調整部門					
1. 企画調整会議	前川 宏一	9	8	—	1
2. 支部長会議	前川 宏一	21	2	—	0
3. 企画・評価委員会	前川 宏一	8	1	—	0
4. 産業財産権検討委員会	田中 久順	9	0	—	1
総務・財務部門					
1. 定款・規則改定委員会	田中 久順	6	0	—	0
2. 総務財務委員会	田中 久順	9	4	—	5
3. 称号授与審査委員会	田中 久順	7	1	—	2
4. 助成金検討委員会	岩城 一郎	12	2	—	1
5. 助成金審査委員会	橘高 義典	12	2	—	2
学術・研究部門					
1. 研究委員会	楠 浩一	21	3	1	3
(1) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会	河合 研至	20	0	4	0
(2) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会	高谷 哲	17	0	10	0
(3) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会	瀬古 繁喜	20	3	9	0
(4) コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会	岡崎慎一郎	13	2	0	0
(5) コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会	塩原 等	21	4	16	0
(6) 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会	大下 英吉	21	4	20	0
(7) コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会	河合 慶有	20	2	7	0
(8) コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会	濱崎 仁	22	3	14	1
(9) 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会	竹田 宣典	18	2	10	0
(10) 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会	壁谷澤寿一	20	6	3	1

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG 等	
(11) コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する FS 委員会	杉本 訓祥	17	5	1	0
(12) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会	肴倉 宏史	25	3	—	0
2. 国際委員会	河野 進	13	3	—	17
(1) ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員会	長井 宏平	13	2	1	2
(2) JCI-ACI コラボレーション委員会	三木 朋広	10	2	—	0
(3) JCI-TCI コラボレーション委員会	丸山 久一	11	4	—	0
(4) fib コンGRES 2030 準備委員会	石田 哲也	10	1	2	2
(5) MC3 Conference 実行委員会	丸山 一平	11	2	—	0
3. 図書編集委員会	河合 研至	4	2	—	3
(1) コンクリート工学編集委員会	河合 研至	36	12	16	1
(2) 文献調査委員会	伊代田岳史	22	11	18	0
(3) コンクリート工学論文集編集委員会	湯浅 昇	20	6	—	2
(4) ACT 編集委員会	丸山 一平	20	5	—	2
4. コンクリート工学年次大会委員会	内田 裕市	12	2	—	4
(1) コンクリート工学年次大会 2024(松山) 実行委員会	上田 隆雄	60	1	9	0
(2) コンクリート工学年次大会 2025(盛岡) 実行委員会	石川 雅美	87	2	36	0
(3) コンクリート工学年次大会 2026(奈良) 実行委員会	鎌田 敏郎	79	0	4	0
(4) コンクリート工学年次大会 2027(札幌) 実行委員会	濱 幸雄	1	0	0	0
(5) コンクリート工学年次論文査読委員会	濱田 秀則	45	3	2	0
5. 学会賞選考委員会	内田 裕市	22	3	4	3
技術・普及部門					
1. 技術委員会	黒岩 秀介	12	2	—	5
(1) コンクリート基本技術調査委員会	柳井 修司	22	10	13	0
(2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会	岩波 光保	24	1	2	0
(3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会	溝渕 利明	26	2	10	0
2. 標準化委員会	黒岩 秀介	11	2	—	4
(1) 規準・指針管理委員会	濱 幸雄	9	5	—	0

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数＊		メール 審議数
			委員会	WG 等	
(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	陣内 浩	33	2	11	6
(3) ISO/TC71 対応国内委員会	國枝 稔	99	3	26	55
(4) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会	野口 貴文	32	4	12	7
(5) JIS A5023 再生骨材コンクリート L 改正 原案作成委員会	野口 貴文	27	0	0	0
3. 広報委員会	黒岩 秀介	13	2	－	3
(1) 情報コミュニケーション委員会	伊藤 始	13	5	－	3
(2) JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会	野口 貴文	28	3	12	6
(3) コンクリート女性連携促進検討委員会	須田久美子	11	3	1	0
4. 普及委員会	黒岩 秀介	10	2	－	5
(1) コンクリート技術講習委員会	濱崎 仁	13	1	3	0
(2) マスコンクリートソフト普及委員会	宮澤 伸吾	26	5	6	0
(3) コンクリートのひび割れ調査，補修・補 強指針普及委員会	鎌田 敏郎	27	6	0	0
(4) コンクリート構造物の長期性能シミュレ ーションソフト普及委員会	花岡 大伸	17	1	0	0
資格付与部門					
1. 資格・講習委員会	野口 貴文	13	3	1	0
(1) コンクリート技士試験委員会	野口 貴文	32	2	21	0
(2) コンクリート技士研修委員会	下村 匠	25	0	1	0
(3) コンクリート診断士講習委員会	加藤 佳孝	20	1	2	0
(4) コンクリート診断士試験委員会	國枝 稔	48	2	38	0
(5) コンクリート診断士研修委員会	岩城 一郎	19	2	2	0
計		1462	191	348	150
			539		

* 「—」は該当する会議体がないことを示す。

Ⅱ 公益目的事業

〔 公 1 コンクリートに関する調査研究事業 〕

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管委員会

1) JCI-TC221A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会

(令和 4-6 年度)

本研究委員会は、セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的とする。具体的には、コンクリート構成材料、コンクリートおよびコンクリート構造物等の環境影響評価のモデルケースを構築し、一般に広く提供することを目指す。令和 4 年度、令和 5 年度には、この目的を達成するための活動を行った。令和 6 年度は、これまでの活動内容を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催した。

2) JCI-TC222A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会

(令和 4-6 年度)

本研究委員会は、コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的に令和 4 年度から 5 年度まで文献調査、現地調査、基礎実験などを行ってきた。令和 6 年度は、2 年間の活動で得られた成果を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催した。

3) JCI-TC231A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

本研究委員会は、石灰石微粉末をコンクリート分野で積極的に活用していく上で、利用者等に適切な情報を提供することを目的とし、各種データの調査と実験検討の結果の取りまとめを行う。令和 6 年度は、委員会報告書の原案を作成した。詳細なアンケート調査により、コンクリート構造物への適用実績、石灰石微粉末自体の製造・出荷実績、石灰石微粉末の製造・流通の状況等を明らかにした。セメント製造分野等において、海外も含めた石灰石微粉末の活用方法の取組みを調査し、カーボンニュートラル技術としての石灰石微粉末および人工的に合成した炭酸カルシウム粉末の活用事例とともに、今後の展望を検討した。コンクリート製品などでの実物大の評価実験を行い、石灰石微粉末の利用の効果を明らかにするとともに、品質規格（案）を作成した。

4) JCI-TC232A コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

本研究委員会は、コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法を提案する。令和 6 年度は、前年度までの活動成果を踏まえ、機械学習を活用した回帰

分析、画像認識の事例をもとに、適用性の議論を行った。さらに、無償公開されている実験データの解析と、コンクリート工学年次論文集にて報告された実験データの収集と体系的な整理を実施した。これらのデータを統合し、データベース基盤を整備した上で、当該データに基づく回帰モデルを構築する一連の手法を提示することができた。

5) JCI-TC233A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会 (令和 5-7 年度)

本研究委員会は、建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、その改善方策の提案、および実現のためのロードマップならびにコンクリート構造の研究コミュニティが取り組むべき研究課題を抽出し、報告書に取りまとめることを目標とした活動を行っている。令和 6 年度は、本委員会とアメリカコンクリート工学会 ACI 374 委員会が協力して、令和 5 年度から準備を進めてきた共通建物の試設計の結果を互いに報告し討論するために、令和 6 年 6 月に愛媛県松山市において日米ワークショップを開催し、日米の実務における非線形時刻歴応答解析の用いられ方の共通点や相違点についてお互いに理解を深めた。さらに、それらの設計のために適用された日米それぞれのガイドラインの適用範囲、コンクリート部材や要素のモデル化、設計クライテリア、信頼性、利用上のルール・留意事項などについての比較に関する資料の作成を行なった。そして、日米の設計例の違いについての考察を行うとともに、日米のコンクリート構造の研究コミュニティが今後取り組むべき研究課題を抽出し、委員会報告書の原稿の形で取りまとめた。

6) JCI-TC234A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和 5-7 年度)

本研究委員会は、鋼材腐食が生じた既存 RC 実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法の提示ならびに PC 実構造物における鋼材健全性が構造性能に及ぼす影響および鋼材健全性調査手法の体系的整理を目的とした。令和 6 年度は、構造性能評価に必要な入力値を実構造物から測定する箇所を選定に数値解析を用い、当該領域での情報獲得手段としての非破壊試験方法の活用を体系的に示し、さらに取得された離散データを連続化する方法について取りまとめた。さらに、PC 構造での構造性能評価も同様に検討し、RC、PC を含めて健全性調査方法の体系的な整理を目的とした共通実験を実施し、現状の調査方法を議論・整理した。

7) JCI-TC241A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会 (令和 6-7 年度)

本研究委員会は、令和 6 年度に、既往の知見整理と共通実験を行うための WG 活動を精力的に実施した。文献調査では微生物系、無機系(セメント系)を中心として自己治癒材により生じる生成物とセメントマトリクスとの一体性の有無、Healing か Sealing などの分類整理について、RILEM の定義(自然治癒、自律治癒)も参考に検討した。また、環境条件が自己治癒材に与える影響に関しては、主にバクテリア系の自己治癒コンクリートを対象に、MICP に利用される微生物の特性を文献調査し、水の存在に加え、pH、温度、塩分濃度等の環境条件に関する情報を整理した。また、共通実験の準備として微生物+繊維補強(PP 繊維、PVA 繊維等)を組み

合わせた自己治癒材の試験体制作を実施した。加えて、港湾空港技術研究所内の防護壁を対象とし、補修前後での共通試験として、弾性波、加速度センサ、電気化学的計測などを用いて、自己治癒材の性能評価(発現性、持続性等)とコンクリートの補修効果(止水性、防食性等)の評価方法を検討した。

8) JCI-TC242A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会

(令和 6-7 年度)

本研究委員会は、数百 MHz～数百 THz の周波数帯の電磁波に関して、コンクリート分野において従来の鉄筋探査等への適用のほかに、コンクリート内部や損傷状況の可視化、塩分・水分等の劣化因子の把握、鉄筋腐食状況の評価といった高度利用を行うことを目的として、コンクリート分野および関連する分野の研究開発動向や適用事例等を調査し、技術の普及のための検討を行った。併せて、令和 7 年度に各種技術の適用性に関する横断的な評価実験を実施するべく、その予備検討を行った。

9) JCI-TC243A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会

(令和 6-7 年度)

橋梁点検などにおいて、現行の 5 年毎の点検時に劣化を把握できるのは、既に鉄筋腐食が進行した状況であることが多く、その対策は事後保全的になることが多い。維持管理手法を予防保全型へと移行させるためには、劣化の初期段階において精度よく劣化状況进行评估する点検手法の確立が急務である。本研究委員会では、①中性化深さの評価方法、②塩化物イオン濃度の評価方法、③鉄筋腐食度の評価方法を検討する 3 つの WG を設置し、中性化および塩害を対象としたコンクリート構造物の予防保全を目的とした点検方法について、文献調査および構造物に対する実施状況の調査を行い、予防保全に適用できる点検技術の体系化、選定方法の取りまとめ方法について検討を行った。

10) JCI-TC244A 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会

(令和 6-7 年度)

本研究委員会は、令和 6 年度の活動として津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造構造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる研究や実設計の事例等を文献収集し、鉄筋コンクリート造柱やはりなど耐圧部材の波圧による損傷、漂流物衝突荷重や堰止め荷重、2 方向外力の影響、基礎地盤の洗掘、津波荷重に対する既存建築物の部材補強、免震構造における設計上の留意点について検討を行った。さらに、既存建物の鉄筋コンクリート造柱を想定した縮小模型の衝突載荷実験を実施するため、縮小試験体 2 体の設計および製作を行った。

11) JCI-TC245F コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する FS 委員会

(令和 6 年度)

本 FS 委員会は、土木構造物や建築物の崩壊過程に関わる予測や評価手法に関する研究動向を調査し、防災や災害対策に有効な知見を整理することを目的とし、文献調査を行った。

1 年間の活動の結果、橋梁や高架橋脚などの土木構造物や一般的な建築物に対して倒壊や崩壊といったポストピークを扱う研究は、件数は多くはないものの幅広く行われていた。実被害として生じる倒壊や崩壊を対象に、評価技術の向上が必要との認識から研究が行われており、ポストピークなどの領域の評価技術に対するニーズや研究動機があること、倒壊や崩壊

の定義が研究者によりさまざまに定義されており、認識の共有や、少なくとも定義方法に関する指針を提示することが望まれること、などが結論として得られた。

(2) 技術委員会所管委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会

(常設)

本委員会では、コンクリート構造物における製造・施工に関する基本技術を調査し、広く社会に役立つ形で情報を発信することを目的として、令和6年度は「準備工」および「運搬」の2つのWGで調査活動を行った。準備工WGでは、建築工事における鉄筋施工の実状に関するアンケート結果について報告書を作成し、報告会を行った。運搬WGでは、運搬に関するQ&Aを作成し、運搬に関するアンケート調査の結果をもとに報告書の作成に着手した。

2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

(平成29-令和16年度)

本委員会では、共通試験WGおよびモニタリングWGを設置して活動を行った。令和6年度は、共通試験WGでは、端島（通称、軍艦島）に様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、「端島における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、5月および10月に上陸調査を行って、鉄筋コンクリートや補修材の劣化の進行状況を物理的および化学的な観点から調べ、その結果を基に補修効果の検討を行った。モニタリングWGでは、10月に上陸調査を行って、30号棟以外のモニタリング対象建物の選定、具体的な観測方法に関する検討を行った。併せて、これまでの委員会の活動成果を広く紹介するための一般向け報告会を開催した。

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

(令和4-7年度)

本委員会は、「マスコンクリートのひび割れ制御指針」の2025年改訂を目指して、その原案の作成を行うことを目的としている。令和6年度は、「本編」、「温度ひび割れ制御編」および「DEF ひび割れ防止編」の各編について、改訂項目の見直しを行うとともに、改訂原案を作成した。作成した改訂原案を規準・指針管理委員会に審査依頼を行うとともに、審査による指摘事項の修正を行い、改訂原案を完成させた。また、改訂された指針を普及させるための講習会についての検討を行った。

(3) 支部研究委員会

1) (北海道支部) 時間軸評価に基づく北海道地域の構造設計に関する研究委員会
(令和6-7年度)

2) (北海道支部) 北海道の火山堆積物の利用研究委員会
(令和6-7年度)

3) (北海道支部) 破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会
(令和6-7年度)

4) (北海道支部) 将来構想検討委員会
(令和6年度)

5) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会(第二期)
(令和6-7年度)

6) (中部支部) バサルト繊維の物性や活用の将来像に関する調査研究委員会
(令和5-6年度)

7) (中部支部) 中部地域の革新的コンクリート技術の拠点創造に関する調査研究委員会
(令和5-6年度)

- 8) (中部支部) 中部国際空港鉄道連絡橋材齢 20 年における疑似橋脚の物性等の調査研究委員会 (令和 6・7 年度)
- 9) (中国支部) ジオポリマー硬化体の配調合調査研究委員会 (令和 5・6 年度)
- 10) (中国支部) 土木および建築におけるコンクリート施工に関する調査研究委員会 (令和 6・7 年度)
- 11) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和 3・7 年度)
- 12) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設)
- 13) (四国支部) コンクリート構造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会 (令和 5・7 年度)
- 14) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会 (令和 5・6 年度)
- 15) (九州支部) 副産物・地域材料を用いたコンクリートに関するレビュー研究専門委員会 (令和 6・7 年度)
- 16) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究専門委員会 (令和 5・6 年度)
- 17) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究成果報告委員会 (令和 6 年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程」に基づき、審査申請された「マスコンクリートのひび割れ制御指針(改訂原案)」について審査を実施し、査読結果に対応した修正原案が妥当と認められたため承認した。また、前回確認から 5 年経過した以下の JCI 規準についてアンケートに基づき改廃の可否を審議した結果、①および④についてはこのまま JCI 規準として維持することとした。また、②および③についてはアンケートで寄せられた技術的な改正要望について原案作成者に改正可否の判断を依頼したところ、一部改正が必要と判断されたため、次年度に技術委員会の所管で改正原案の作成を行う方針とした。

- ① JCI-S-001-2003 切欠きはりを有したコンクリートの破壊エネルギー試験方法
- ② JCI-S-002-2003 切欠きはりを有した繊維補強コンクリートの荷重-変位曲線試験方法
- ③ JCI-S-003-2007 繊維補強セメント複合材料の曲げモーメント-曲率曲線試験方法
- ④ JCI-S-009-2012 円筒型枠を用いた膨張コンクリートの拘束膨張試験方法

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 以下の JIS について改正原案を作成し、(一財) 日本規格協会の 2024 年度 JIS 原案作成公募制度を通じて主務大臣に改正申出したところ、日本産業標準調査会の審議を経て改正が承認された。

- ① JIS A 0203 コンクリート用語

- 2) 以下の JIS について改正の要否を検討し、確認（改正不要）を判断した。
- ① JIS A 1112 フレッシュコンクリートの洗い分析試験方法
 - ② JIS A 1118 フレッシュコンクリートの空気量の容積による試験方法（容積方法）
 - ③ JIS A 1134 構造用軽量細骨材の密度及び吸水率試験方法
 - ④ JIS A 1135 構造用軽量粗骨材の密度及び吸水率試験方法
 - ⑤ JIS A 1149 コンクリートの静弾性係数試験方法
 - ⑥ JIS A 1151 拘束されたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ試験方法
 - ⑦ JIS A 1155 コンクリートの反発度の測定方法
 - ⑧ JIS A 1192 コンクリート用連続繊維補強材の引張試験方法
 - ⑨ JIS A 1193 コンクリート用連続繊維補強材の耐アルカリ試験方法
- 3) 以下の JIS について要改正と判断し、改正原案の作成を開始した。
- ① JIS A 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法－化学法－
 - ② JIS A 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法－モルタルバー法－
 - ③ JIS A 1191 コンクリート補強用 FRP シートの引張試験方法

（3）ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会、各 SC（分科委員会）、および TC・SC の傘下にある WG・AHG（Ad Hoc Group）・CAG（Chair Advisory Group）の会合に委員を派遣し、日本が主導する規格開発の説明を行うとともに、他国主導の規格作成に日本の意見を反映させた。
- 2) ISO/TC71 の以下の会議体において、議長、委員会マネジャー、WG・AHG・CAG のコンビーナ、セクレタリーおよびエキスパートの役割を遂行した。
- ① TC71（コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート）：議長および委員会マネジャー
 - ② SC1（コンクリートの試験方法）：エキスパート（WG）
 - ③ SC3（コンクリートの製造及び施工）：コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ④ SC4（構造コンクリートの要求性能）：エキスパート（WG）
 - ⑤ SC5（コンクリート構造物の簡易設計標準）：コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ⑥ SC6（コンクリートの新しい補強材）：議長、委員会マネジャー、コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ⑦ SC7（コンクリート構造物の維持および補修）：議長、コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ⑧ SC8（コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント）：議長、委員会マネジャー、コンビーナ、セクレタリーおよびエキスパート（WG）
 - ⑨ SC9（鋼コンクリート合成・複合構造）：エキスパート（WG）
 - ⑩ TC71/WG1（コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント）：コンビーナおよびエキスパート
 - ⑪ TC71/WG2（コンクリート充填鋼管複合構造の設計）：セクレタリーおよびエキ

スパート（年度内に SC9 へ改組のため解散。）

⑫ CAG：コンビーナおよびエキスパート

⑬ TC71/AHG1（コンクリート材料の用語）：コンビーナおよびエキスパート

3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応した。

4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 情報収集・意見収集を図るとともに, 各国との調整を行い, 規格化に向けた活動を行った。

(令和 6 年度発行：新規制定および改正)

① ISO 19338 構造用コンクリート設計規準の性能要求基準（改正。「コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価」の組み入れ）

② ISO 19044 繊維補強セメント材料の試験方法（切欠き梁の 3 点曲げ試験）（改正）

③ ISO 16311-1 コンクリート構造物の維持及び補修－第 1 部：一般原則（改正）

④ ISO 13315-2 コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント－第 2 部：システム境界及びインベントリデータ（改正）

⑤ ISO 22040-2 コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント－第 2 部：計画・設計段階（新規）

⑥ ISO 22040-3 コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント－第 3 部：施工段階（新規）

(新規制定に向け対応中)

⑦ 繊維補強セメント複合材に用いる合成短繊維の分類：ISO/DIS 13182

⑧ 火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修：ISO/AWI 13117

⑨ コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント：ISO/DIS 13315-5（コンクリート構造物の施工）および ISO/WD 13315-7（コンクリート及びコンクリート構造物の最終段階）

⑩ コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量：ISO/WD 21282-1（一般原則），ISO/WD 21282-2（酸分解・逆滴定法）および ISO/WD 21282-3（熱分解・重量測定法）

⑪ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント－第 4 部：使用段階

⑫ コンクリートの用語－第 1 部：用語の分類についての原則：ISO/PWI 25511-1

⑬ 施工時，竣工時，管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法

(改正対応中)

⑭ ISO 22965-1 コンクリート－第 1 部：仕様書作成方法

⑮ ISO 22965-2 コンクリート－第 2 部：構成材料の仕様，コンクリートの製造および適合性

⑯ ISO 18407 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法

⑰ ISO 10406-2 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強－試験方法：

⑱ ISO 18319-1 コンクリート構造物の FRP 補強材：FRP シートの仕様

5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC195/SC1

(Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務めた。

(4) JIS A5023 再生骨材コンクリート L 改正原案作成委員会

JIS A 5023 再生骨材コンクリート L の追補改正原案の作成を開始した。

3. 国際協力および交流

- 1) 11 月 11 日～13 日に開催された *fib* Symposium 2024 Christchurch と同時に開催された GA および TC 会議に *fib* Deputy Delegate である国際委員会の藤山知加子委員が出席した。
- 2) ACI 主催の「24 Hours of Concrete Knowledge」に参加し、7 月 10 日の 13 時～14 時（日本時間）の間、JCI がホストを務め、JCI の昨今の研究委員会活動の内容を紹介した。11 月 3 日～5 日にフィラデルフィアで開催された ACI Concrete Convention に国際委員会の楠浩一委員と JCI-ACI コラボレーション委員会の三木朋広委員長が出席した。併せて 2025 年 7 月の JCI 年次大会 2025 盛岡において開催予定の第 7 回 JCI-ACI ジョイントセミナー「Innovations and New Developments in Concrete Structures」の実施計画ならびに今後の Collaboration で行う議論の方向性について ACI 側担当者との打合せを行った。
- 3) 8 月 25 日にトゥールーズ（フランス）、3 月 23 日にメンドリシオ（スイス）で開催された RILEM TAC 会議に、国際委員会の今本啓一委員が出席した。
- 4) 8 月 15 日～18 日に開催された The 10th international conference of the Asian Concrete Federation (ACF) と同時に開催された Executive Committee(EC)会議に ACF 対応委員会の長井宏平委員長が出席した。
- 5) 6 月 24 日～26 日に、JCI-TCI コラボレーション委員会の浅本晋吾幹事が台湾の成功大学を訪問し、意見交換を行った。11 月 6 日には、TCI から Hung 教授および Yuen 准教授を JCI 本部に迎え、前川宏一会長および JCI-TCI コラボレーション委員会の幹事団との間で今後の連携体制に関する意見交換を行った。2 月 23 日～26 日には、JCI-TCI コラボレーション委員会の丸山久一委員長、宮澤伸吾幹事、浅本晋吾幹事が TCI 本部を訪問し、金会長はじめとする TCI 執行部と両学会間のコラボレーションに関して意見交換を行い、令和 7 年度の活動計画について合意した。
- 6) 2026 年 9 月に東京で開催する国際会議「2nd International Conference on Mineral Carbonation for Cement and Concrete」の実行委員会を設置し、準備を開始した。
- 7) 「*fib* コンgress 2030 準備委員会」を設置し、2030 年 10 月に京都で開催される *fib* コンgress 2030 の開催準備をプレストレストコンクリート工学会と共同で行った。
- 8) ISO/TC71 の次の会議に ISO/TC71 対応国内委員会からそれぞれの担当者がオンラインあるいは対面にて、議長、マネジャー、コンビーナ、エキスパート、委員の立場で出席した。全体会議（第 29 回 11 月 22 日 16 名）、CAG 会議（第 5 回 11 月 19 日 6 名）、SC1 会議（第 31 回 11 月 13 日 3 名）、SC3 会議（第 33 回 11 月 20 日 4 名）、SC3/WG1 会議（第 13 回 9 月 24 日 2 名、第 14 回 1 月 16 日 1 名、第

15回2月21日2名), SC3/WG10会議(第3回4月16日3名,第4回6月18日3名), SC3/AHG2会議(第1回11月4日1名,第2回3月31日1名), SC4/WG1会議(第17回8月13日2名,第18回9月10日1名,第19回11月21日3名), SC5会議(第23回7月5日3名,第24回11月20日3名), SC6会議(第18回11月21日8名), SC6/WG5会議(第3回8月30日4名), SC6/WG6会議(第2回8月30日4名), SC7会議(第18回8月29日5名,第19回11月20日7名), SC7/AHG8会議(第2回9月30日4名), SC8会議(第15回11月19日5名), SC8/WG4会議(第2回10月6日4名,第3回2月11日3名), SC8/WG8会議(第1回8月23日2名), SC8/WG9会議(第1回2月12日2名), SC9会議(第1回8月22日5名,第2回11月19日4名), WG1会議(第7回11月21日10名), AHG1会議(第7回6月4日4名,第8回9月3日2名)。以上,延べ127名が会議に出席した。

4. 受託研究事業

(1) 国際標準開発関連

三菱総合研究所(MRI)再委託(経済産業省委託)事業として,「令和6年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費(戦略的国際標準化加速事業:政府戦略分野に係る国際標準開発活動)(テーマ名:コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術等に関する国際標準化)」(1年目)を実施した。8件の規格案について,原案作成と提案のための対応を行い,成果報告書を提出して国際標準開発の事業を進めた。

(2) カーボンリサイクル評価方法のJIS開発関連

「カーボンリサイクル評価方法のJIS原案作成委員会」において,日本規格協会(JSA)再委託(経済産業省委託)事業として,「令和6年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野(新規対応分野)))」(テーマ名:コンクリート及びその構成材料のCO₂吸収・固定量の評価方法に関するJIS開発)」(3年目)を実施した。本件受託で外部機関へ発注した実験結果を反映の上,コンクリートおよびコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量方法について,「通則」,「酸分解-逆滴定法」および「熱分解-重量測定法」の3つのJIS原案を提出した。その他,4つの定量方法についてJIS化のための素案を作成し,これらの実施内容を取りまとめた成果報告書を提出した。

(3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質関連

「JCI-TC246C コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会」において,鉄鋼スラグ協会,日本鋳業協会,カーボンフロンティア機構および日本産業機械工業会からの委託研究を実施し,コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方の取りまとめと,利用実態を踏まえた重金属類の溶出試験のあり方を検討した。

5. 出版事業

次の論文集，研究報告書，テキスト等を刊行した。

- 1) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告書 (CD)
- 2) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告書 (CD)
- 3) 「コンクリート基本技術調査委員会 準備工 WG」報告書
- 4) コンクリート技術の要点'24
- 5) コンクリート工学年次論文集第 46 巻 2024 年 (DVD 版)
- 6) Technical Committee Reports 2024 (研究専門委員会報告書英文概要，Web 公開)
- 7) コンクリート技士・主任技士研修テキスト'24
- 8) コンクリート診断士研修資料'24 (ダウンロード版)
- 9) コンクリート診断技術'25

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

毎月 1 回刊行して会員に頒布した。特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1) コンクリートの数値計算技術 | 2024 年 5 月号 |
| 2) コンクリートと AI | 2024 年 9 月号 |
| 3) コンクリート工事における品質確保に向けた取組み | 2025 年 1 月号 |

また，文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年 9 回掲載した。

(2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして 35 巻 (5 月) および 36 巻 (1 月・3 月) を Web (J-STAGE) にて公開した。

(3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol.22 (Issue 4~Issue 12) および Vol.23 (Issue 1~Issue 3) を Web (J-STAGE) にて公開した。

7. 広報事業

(1) 広報活動

- 1) 会誌「コンクリート工学」，本学会パンフレット，ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。

- 2) 情報コミュニケーション委員会

定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を目的として，本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行った。主に，以下の項目に関する活動を行った。

- ① 月刊コンクリート技術 (一般向けコンテンツ) の公開 : 7 月号 (2 編)，8 月号，2 月号の公開 (合計 4 編)
- ② メールニュースの作成および配信 (月 1 回配信。その他イベントリマインダ等を随時配信)

- ③ HP リニューアルの追加内容（英語版 HP のリニューアル，会員専用ページにある研究委員会報告書検索システムの改修等）の検討

3) JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会

JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会にて総務部会，記念誌発行部会および特別講演部会の 3 部会を設置し，準備を進めた。総務部会では会場，記念式典，記念祝賀会，表彰対象および記念品等の検討，特別講演部会では講演者の検討，記念誌発行部会では 60 周年史と写真集等の内容の検討を行った。

4) コンクリート女性連携促進検討委員会

コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討するために以下の活動を行った。

- ① コンクリートに関わる女性の連携促進に関する検討(通信方法)
- ② 建設産業女性定着支援ネットワーク(以下，NW)との連携による PR 活動，NW サイトの更新，ブロック意見交換会への参加
- ③ 『女性連携のための「現地見学および意見交換会」』を関東支部と共同開催

(2) 普及活動

1) マスコンクリートソフト普及委員会

本委員会では，主に以下の活動を行った。

- ① JCMAC シリーズ (JCMAC1・2, JCMAC3, JCMAC3-U) のユーザーサポート
- ② 土木学会示方書の改訂に対応した JCMAC3 のバージョンアップ
- ③ JCMAC3 による壁状構造物の温度ひび割れ幅解析 (216 ケース) の実施および温度ひび割れ幅予測式の検討
- ④ JCMAC3 初心者向けトレーニングセミナー開催
- ⑤ 温度ひび割れ幅解析に関する委員会報告書の執筆
- ⑥ 温度ひび割れ幅解析に関する報告会の実施計画

2) コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針普及委員会

本委員会では，令和 4 年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を主な目的とし，以下の活動を行った。

- ① 国内講習会（福井，宮崎，名古屋）の実施
- ② 海外講習会（マニラ）の実施
- ③ 実構造物のひび割れ実態調査（沖縄）の実施
- ④ 2022 年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑤ 2022 年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑥ 2022 年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

本委員会では，現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動を目的に，実務における本ソフトの適用事例の収集とユーザー目線からの改善点を検討する実務 WG を発足した。また，学生（大学院生）

を対象に、LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムの改良とその活用方法を検討する教育WGを発足した。

8. 関連学協会との共同活動

「(一社) 防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するとともに、「建設系 7 学会会長会議」に出席し、情報収集を行った。また、「建設系 CPD 協議会」の会長および同事務局を担当し、令和 7 年 2 月 17 日、本学会会議室（ハイブリッド形式）にて「建設系 CPD 協議会シンポジウム」を開催した。

9. 助成金事業

2024 年度研究助成および国際会議参加助成を公募し、6 件の研究助成および 10 件の国際会議参加助成（前期 7 件、後期 3 件）を採択した。また、6 月 28 日に、年次大会 2024（松山）にて、2023 年度助成金採択者に対する助成金交付証の授与を行った。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2024（松山）を 6 月 26 日～28 日の 3 日間、対面式にて開催した。

上田隆雄実行委員長の開会の辞、前川宏一会長の挨拶、内田裕市副会長による JCI 活動報告に続いて次の行事を行った。

1) 第 46 回コンクリート工学講演会

講演題数 535 編

参加者 3992 名（3 日間延べ）

2) 特別講演会

本州四国連絡高速道路（株） 大江慎一 氏

演 題：夢の懸け橋は今！本州四国連絡橋の構想から現在、そしてこれから

聴講者数 154 名

3) 生コンセミナー

テーマ：どうする 5308!!これからの行方 地方から見た JIS A5308 と人材育成

参加者 640 名

4) コンクリート構造物診断セミナー

テーマ：地方発コンクリート構造物維持管理の爽籟に向けて

参加者 201 名

5) 見学会

旧別子銅山遺構コース

来島海峡大橋/今治城コース

6) 年次論文奨励賞 59 名の表彰（副賞：砥部焼の皿）

2. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2024 年度コンクリート技術講習会を、10 月 1 日から 11 月 27 日まで、オンライン（オンデマンド配信）形式にて開催した。参加者は 588 名（前年度は 573 名）であった。

(2) シンポジウム・セミナー・報告会・講習会

- 1) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告会を、9 月 19 日に明治大学駿河台キャンパスにて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は 142 名であった。
- 2) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告会を、9 月 2 日に大阪市中央公会堂小集会室にて、9 月 12 日にきゅりあん（品川区立総合区民会館）小ホールにて、それぞれ対面形式で開催した。参加者は大阪 56 名、東京 128 名であった。
- 3) 「危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会」報告会を、7 月 1 日に日本コンクリート工学会にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は 53 名であった。
- 4) 「コンクリート基本技術調査委員会準備工 WG」報告会を、3 月 6 日に日本大学にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は 172 名であった。
- 5) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022」講習会を、7 月 5 日に福井市の福井市地域交流プラザにて、11 月 22 日に宮崎市の KITEN ビルにて、3 月 28 日に名古屋市の電気文化会館にて、それぞれ対面形式で開催した。参加者は福井 55 名、宮崎 48 名、名古屋 56 名の計 159 名であった。
- 6) 「3 次元マスコンクリート温度応力解析ソフト JCMAC3 講習会（初心者向けトレーニングセミナー）」を、3 月 6 日・7 日に新潟日報メディアシップにて、対面形式で開催した。参加者は 9 名であった。

(3) 支部 講演会、講習会、報告会

支部主催の講演会、講習会、報告会を次のとおり開催した。

1) （北海道支部）コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会

開催日：10 月 3 日

場 所：北海道新幹線札幌駅創成工区工事，仁木トンネル工事

2) （北海道支部）コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座

開催日：10 月 17 日

場 所：札幌駅前ビジネススペース（ハイブリッド形式）

演 題：①「Innovative Self-Healing Concrete for Carbon Neutrality

～カーボンニュートラルを実現する革新的な自己修復コンクリート～」

講 師：崔 希燮氏（北見工業大学）

演 題：②「NMR を用いたセメント系材料の分析」

講 師：金 志訓氏（室蘭工業大学）

3) （東北支部）第 19 回「コンクリート診断技術研鑽のための勉強会」

開催日：9 月 10 日

場 所：国道 454 号 橋梁補修（えんぶりっち）工事現場 見学
八戸工業大学 橋梁メンテナンス体験施設 見学

4) （関東支部）支部総会特別講演会

開催日：5 月 31 日

場 所：都市センターホテル

演 題：①「土木に対する興味と志をかき立てる教員 ー活物同期，絡合，土木史，経済，ストック効果，災害などの観点からー」

講 師：細田暁氏（横浜国立大学）

演 題：②「自分の言葉で伝える ー土木広報虎の巻ー」

講 師：松永昭吾氏（(株)インフラ・ラボ）

5) （関東支部）常陸那珂火力発電所・かみす第 1 洋上風力発電所・霞ヶ浦導水工事・土木研究所・建築研究所の見学会

開催日：9 月 11 日，9 月 12 日

6) （関東支部）女性連携のための新東名高速道路（新秦野 ICー新御殿場 IC）建設現場見学および意見交換会

開催日：2 月 12 日

7) （関東支部）講習会「わかりやすいコンクリート講座 ～コンクリート実務の基本～」

開催日：3 月 24 日

場 所：日本コンクリート工学会

演 題：①「コンクリートの製造」

講 師：渡邊悟士氏（大成建設(株)）

演 題：②「ポンプによる圧送」

講 師：大塚秀三氏（ものづくり大学）

演 題：③「打込み・締固め」

講 師：桜井邦昭氏（(株)大林組）

演 題：④「仕上げ・養生」

講 師：柳井修司氏（鹿島建設(株)）

8) （中部支部）支部活動報告会特別講演会

開催日：5 月 31 日

場 所：名古屋大学 ES ホール（ハイブリッド形式）

- 演 題：①「地域別の生コンの特性および骨材等に関する PD」
- 演 題：②「小規模橋梁を対象としたコンクリート用 DIY 補修のあり方調査
研究委員会報告」
- 講 師：國枝稔氏（岐阜大学）
- 演 題：③「高性能繊維補強コンクリートの利用と課題」
- 講 師：内田裕市氏（岐阜大学）
- 9) （中部支部）学生研修会
- 開催日：9 月 13 日
- 場 所：東海環状自動車道大須ヶ洞第三橋他 2 橋（PC 上部工）工事
愛知国際アリーナ（IG アリーナ）新築工事
- 10) （中部支部）支部総会特別講演会
- 開催日：1 月 22 日
- 場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
- 演 題：「JR 西日本の新幹線構造物について ―北陸新幹線を中心に―」
- 講 師：岡本圭太氏（西日本旅客鉄道(株)）
- 11) （近畿支部）支部総会特別講演会
- 開催日：5 月 28 日
- 場 所：大阪科学技術センター
- 演 題：「令和 6 年能登半島地震による橋梁を中心とした社会インフラの被害
と課題」
- 講 師：田中泰司氏（金沢工業大学）
- 12) （近畿支部）百石斎（田邊朔郎書斎）調査委員会 報告会
（支部設立 30 周年記念行事）委員長：岸本一蔵氏（近畿大学）
- 開催日：11 月 4 日
- 場 所：琵琶湖疎水記念館
- 演 題：①特別講演「田邊朔郎と琵琶湖疎水」
- 講 師：久岡道武氏（琵琶湖疎水記念館）
- 演 題：②特別講演「田邊朔郎がのこしたもの―百石斎をめぐる―」
- 講 師：秋元せき氏（京都市歴史資料館）
- 演 題：③特別講演「鉄網コンクリートの蔵について」
- 講 師：田中和幸氏（近畿大学工業高等専門学校）
- 13) （近畿支部）学生対象セミナー
- 開催日：8 月 21 日および 9 月 21 日
- 場 所：(株) IHI インフラ建設滋賀工場，京都大学桂キャンパス建築構造実験
室
- 演 題：「プレストレストコンクリートについて学ぶ―設計・施工・実験を通し
て―」

- 14) (近畿支部) 見学会
開催日：11月7日
場 所：新名神高速道路 成合第一高架橋工事
- 15) (中国支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月27日
場 所：広島工業大学広島校舎
演 題：「コンクリート構造物の複合劣化と対策」
講 師：上田隆雄氏 (JCI 四国支部長・徳島大学)
- 16) (中国支部) 技術・研究交流会
開催日：10月26日
場 所：広島県情報プラザ
内 容：17件の研究発表，技術紹介，会員相互の交流
- 17) (中国支部) わかりやすいコンクリート講習会
開催日：12月10日
場 所：鳥取市民交流センター
演 題：①「コンクリート構造物の複合劣化」
講 師：黒田 保氏 (鳥取大学)
演 題：②「コンクリートの土砂化とその対策」
講 師：藤井隆史氏 (岡山大学)
演 題：③「ポーラスコンクリートについて」
講 師：坂本英輔氏 (広島工業大学)
演 題：④「コンクリート構造物維持管理への AI の活用」
講 師：中村秀明氏 (山口大学)
- 18) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 中間報告会
開催日：3月21日
場 所：岡山国際交流センター (ハイブリッド形式)
演 題：①「山口県の調査報告 ー角島大橋・上関大橋の建設と維持管理ー」
講 師：中村秀明氏 (山口大学)
演 題：②「広島県の調査報告 ー世界最大規模の吊床版橋である夢吊橋の構造と建造 80 年を超えたコンクリート船武智丸の現状についてー」
講 師：川上善嗣氏 (広島工業大学)
演 題：③「岡山県の調査報告 ー珍しい型式の発電用ダム 恩原ダム・新成羽川ダムー」
講 師：藤井隆史氏 (岡山大学)
演 題：④「島根県の調査報告 ー存在しない今福線に存在するコンクリート構造群ー」
講 師：周藤将司氏 (松江工業高等専門学校)
演 題：⑤「鳥取県の調査報告 ー鳥取県のコンクリート系建造物の調査概要

ー」

講 師：黒田 保氏（鳥取大学）

- 19) （四国支部）「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告

開催日：4月16日

場 所：ホテル パールガーデン

演 題：中心圧縮を受ける鉄筋コンクリート供試体の実験

講 師：根口百世氏（高知工業高等学校）

- 20) （四国支部）支部総会特別講演会

開催日：4月16日

場 所：ホテル パールガーデン

演 題：令和6年能登半島地震における建物被害

講 師：白山敦子氏（徳島大学）

- 21) （四国支部）コンクリートに関する技術交換会・第7回

開催日：7月30日

場 所：オンライン（ライブ）形式

演 題：①「水利コンクリート構造物の摩耗・すりへりに関する研究の現状」

講 師：長谷川雄基氏（香川高等専門学校）

演 題：②「流水環境下における耐摩耗性の評価手法について」

講 師：上野和広氏（島根大学）

- 22) （四国支部）コンクリートに関する技術交換会・第8回

開催日：10月7日

場 所：オンライン（ライブ）形式

演 題：①「鉄道系コンサルで実施している DX の概要 鉄道高架橋工事でアル骨対策としてフライアッシュコンクリートを大規模（約 11 万 m³）に適用した事例」

講 師：小林薫氏（JR 東日本コンサルタンツ(株)）

演 題：②「3D プリント技術のコンクリート分野への応用に関する現状」

講 師：横山勇氣氏（愛媛大学）

- 23) （四国支部）見学会

開催日：10月23日

場 所：四国横断自動車道 津田高架橋上部工事

- 24) （四国支部）コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会成果報告会

開催日：3月3日

場 所：ホテル パールガーデン

- 25) （四国支部）生セミナー in 愛媛

開催日：3月10日

場 所：愛媛大学メディアホール

- 26) (九州支部) 支部総会特別講演会
開催日：4月19日
場 所：リファレンス大博多ビル 11F 会議室 1109
演 題：「立野ダムコンクリートの創意工夫について」
講 師：岩川真一氏（西松建設(株)・立野ダム JV 工事事務所）
- 27) (九州支部) 令和6年度現場見学会
開催日：12月13日
場 所：(仮称) 福岡中央病院建替計画
- 28) (九州支部) 第6回学生シンポジウム
開催日：11月15日
場 所：福岡ファッションビル 1階 6号ホール（ハイブリッド形式）
内 容：学生による研究発表（8件）および意見交換
- 29) (九州支部) 第3回技術者勉強会
開催日：11月15日
場 所：福岡ファッションビル 1階 6号ホール（ハイブリッド形式）
内 容：気候変動対策をテーマとした技術紹介
講演者：澤野慎太郎氏（九州電力(株)）
上野雅之氏（太平洋セメント(株)）
畠山繁忠氏（(株)富士ピー・エス）
松本康資氏（(株)ヤマックス）
- 30) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究成果報告会
開催日：3月21日
場 所：オンライン（ライブ）形式

〔 公 3 表彰事業 〕

1. 学会賞

2024年日本コンクリート工学会賞（論文賞，技術賞，作品賞，奨励賞，功労賞）として次に示す論文賞4件，技術賞3件，作品賞5件，奨励賞5件，功労賞11名を選出した。

（1）論文賞

- 1) Cyclic Behavior of Steel-Concrete Composite Dowel by Clothoid-Shaped Shear Connectors under Fully Reversed Cyclic Stress
鈴木 敦詞 （東北大学）
平賀 圭悟 （(株)佐藤総合計画）
木村 祥裕 （東北大学）
- 2) Thermal Expansion of Cement Paste at Various Relative Humidities after Long-term Drying: Experiments and Modeling

Abudushalamu Aili (名古屋大学)

丸山 一平 (東京大学)

Matthieu Vandamme (Laboratoire Navier, École des Ponts ParisTech.)

3) Tension Stiffening Affected by Radiation-induced Volume Expansion of Aggregate

神林 大輔 (鹿島建設(株))

丸山 一平 (東京大学)

紺谷 修 (鹿島建設(株))

澤田 祥平 (鹿島建設(株))

大窪 貴洋 (千葉大学)

村上 健太 (東京大学)

鈴木 清照 ((株)三菱総合研究所)

4) 機械学習を援用した新しい定式化アプローチによる高精度な予測式の構築 (総合題目)

岡崎百合子 (香川大学)

岡崎慎一郎 (香川大学)

浅本 晋吾 (埼玉大学)

今本 啓一 (東京理科大学)

(2) 技術賞

1) 着色顔料を用いたモルタルの色調制御に関する基礎的研究

陣内 浩 (東京工芸大学)

小山 善行 (東京検査(株))

2) 円柱状シアキーを用いた耐震補強工法と適用事例 ―チッピングに代わる目荒らし―

阿部 隆英 (飛島建設(株))

樋渡 健 (東亜建設工業(株))

高瀬 裕也 (室蘭工業大学)

香取 慶一 (東洋大学)

3) Fc 300 N/mm² クラスの超高強度・高性能コンクリートおよびグラウトの製造技術と細柱としての構造特性

本間 大輔 ((株) 竹中工務店)

田邊 裕介 (TAK-GRIT, INC.)

小島 正朗 ((株) 竹中工務店)

(3) 作品賞

1) 嘉麻市立稲築東義務教育学校

野原 啓司 ((株) 久米設計)

野原 春花 ((株) 久米設計)

伊藤 淳 ((株) 久米設計)

細川 確 ((株) 鴻池組)

田中 哲二 ((株) 鴻池組)

2) 吉野川サンライズ大橋

浦 啓之 (西日本高速道路(株))

中谷 隆行 (西日本高速道路(株))

榊本 恵太 (鹿島建設(株))

山口 統央 (鹿島建設(株))

廣瀬 彰則 ((株)エイト日本技術開発)

3) 竹中工務店静岡営業所

小川 司 ((株) 竹中工務店)

北川 昌尚 ((株) 竹中工務店)

水野 皓太 ((株) 竹中工務店)

山田 基裕 ((株) 竹中工務店)

小杉 嘉文 ((株) 竹中工務店)

西田 順風 ((株) 竹中工務店)

伊藤 宰 ((株) 竹中工務店)

4) 立命館アジア太平洋大学 AP House 5

村上 友規 ((株) 竹中工務店)

須賀 順子 ((株) 竹中工務店)

堀 良平 ((株) 竹中工務店)

福濱 剛平 ((株) 竹中工務店)

本間 大輔 ((株) 竹中工務店)

5) 古平町複合施設 かなえーる

成田 昭彦 (古平町)

三崎 利彦 (大成建設(株))

武井 健 (大成建設(株))

高橋 章夫 (大成建設(株))

小山 智子 (大成建設(株))

是永 健好 (大成建設(株))

森山 毅子彦 (大成建設(株))

相馬 智明 (大成建設(株))

(4) 奨励賞

1) 鉄筋コンクリート構造物の強度と靱性を保証する正規化骨組要素の開発に関する基礎的研究 (総合題目)

堀川 真之 (日本大学)

2) 等価線形化法に基づく RC 造部材の降伏点変形角のばらつきに対する安全率を考慮した保証設計に関する研究 (総合題目)

王 澤霖 (東京大学)

- 3) 養生中の CO₂ 濃度および流量の連続測定結果に基づく CO₂ 固定量の評価手法に関する研究（総合題目）

関 健吾 （鹿島建設(株)）

- 4) 海外産 Class C フライアッシュ及び石粉を用いた超富配合 RCC の配合設計に関する研究（総合題目）

青坂 優志 （関西電力(株)）

- 5) ニューラルネットワークに基づく打音による鉄筋腐食判定に及ぼす低品質データの影響に関する研究（総合題目）

福井 智大 （防衛大学校）

（５）功労賞

石川靖晃	石田知子	上田 洋	上野 敦	浦野真次
緒方辰男	親本俊憲	坂井吾郎	杉橋直行	津吉 毅
山崎順二				

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰を行った。

- 1) 北海道支部

支部優秀学生賞 4 名

支部功績賞 2 名

- 2) 東北支部

支部奨励賞 4 件

- 3) 近畿支部

支部奨励賞 4 名

- 4) 中国支部

コンクリートマイスター認定 2 名

- 5) 九州支部

支部長表彰 大学院 17 名，大学 32 名，高専 5 名（合計 54 名）

Ⅲ 収益事業

[収 1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・主任技士資格制度事業

（１）コンクリート技士・主任技士試験

11 月 24 日に，全国 9 地域（札幌，仙台，東京，名古屋，大阪，広島，高松，福岡，沖

縄)において、コンクリート技士・主任技士試験を実施した。

全国を受験者はコンクリート技士試験 8,449 名(前年度 8,410 名)、コンクリート主任技士試験 2,872 名(前年度 2,944 名)で、合格者はコンクリート技士試験 2,566 名(合格率 30.4%)、コンクリート主任技士試験 388 名(合格率 13.5%)であった。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

第 38 回コンクリート技士研修および第 9 回コンクリート主任技士研修を、e ラーニング形式にて実施した。

全国受講者はコンクリート技士 10,548 名、コンクリート主任技士 2,541 名の合計 13,089 名(前年度コンクリート技士 10,257 名、コンクリート主任技士 2,502 名の合計 12,759 名)であった。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士・主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士 2,492 名(登録率 97.1%)、コンクリート主任技士 388 名(登録率 100%)の登録を行った。また、登録有効期間(4 年)満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート技士・主任技士研修を受講したコンクリート技士 10,531 名、コンクリート主任技士 2,485 名の更新・再登録を行った。この結果、2025 年 4 月 1 日における登録者数は、コンクリート技士 49,621 名、コンクリート主任技士 11,365 名となった。

なお、コンクリート技士・主任技士試験の 2024 年度の実験者数、合格者数および 2025 年 4 月 1 日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業 種 \ 試 験	技士試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官庁	19	8	6	0	247	36
独立行政法人・事業団等	39	12	15	5	287	69
地方自治体等	102	60	29	7	1,033	180
大学・学校	5	3	2	1	74	66
設計事務所	40	20	9	2	443	110
コンサルタント	575	225	90	19	3,002	691
エンジニアリング	73	30	10	0	224	39
セメント	74	33	36	16	591	380
混和材料	68	31	82	10	707	384
生コンクリート	1,828	431	1,386	89	9,830	3,778
コンクリート製品	858	219	221	26	4,138	687
建設	3,923	1,223	790	172	24,188	3,892
調査診断	147	39	12	2	248	56
試験	136	29	72	8	272	93
電力・ガス	69	46	20	13	378	100
鉄道	115	33	12	4	536	76
道路	87	29	17	4	583	80
その他	291	95	63	10	2,840	648
合 計	8,449	2,566	2,872	388	49,621	11,365

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

2024 年度コンクリート診断士講習を e ラーニング形式にて、4 月 5 日から 5 月 20 日に実施した。

全国を受講申込者は 2,965 名（前年度 3,160 名）であった。

(2) コンクリート診断士試験

7 月 21 日に、全国 9 地域（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄）において、コンクリート診断士試験を実施した。

全国を受験者は 3,217 名（前年度 3,412 名）で、合格者は 536 名（合格率 16.7%）であった。

(3) コンクリート診断士研修

2024 年度コンクリート診断士研修を e ラーニング形式で実施した。全国を受講修了者は 3,018 名（前年度 3,476 名）であった。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士試験合格者からの申請に基づき、535 名（登録率 99.8%）の登録を

行った。また、登録有効期間（4 年）満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート診断士研修を受講した 3,018 名の更新・再登録を行った。この結果、2025 年 4 月 1 日におけるコンクリート診断士登録者数は 15,175 名となった。

なお、コンクリート診断士の 2024 年度の受験者数、合格者数および 2025 年 4 月 1 日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業 種	受験者	合格者	登録者
官庁	24	5	138
独立行政法人・事業団等	25	12	186
地方自治体等	119	29	811
大学・学校	6	3	82
設計事務所	52	8	212
コンサルタント	795	107	3,869
エンジニアリング	55	12	243
セメント	42	15	285
混和材料	18	3	149
生コンクリート	259	34	718
コンクリート製品	92	21	422
建設	1,276	211	5,818
調査診断	137	27	500
試験	36	5	94
電力・ガス	28	5	200
鉄道	54	13	296
道路	64	10	363
その他	135	16	789
合 計	3,217	536	15,175

3. 資格・講習委員会

コンクリート診断士試験およびコンクリート技士・主任技士試験合格者の内定を行った。また、国土交通省の技術者資格登録の対応を行った。

[収 2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2024

コンクリート工学年次大会 2024（松山）と併行して、コンクリートテクノプラザ 2024 を開催した。

展示 66 社 技術紹介セッション 45 件
入場者数 3 日間延べ 5,077 名

IV そ の 他

1. JCI 次世代構想特別委員会

令和 6 年度は、中期的視野に立って今後本学会が進めなければならない事項のうちいくつかのテーマに絞った自由討議を行い、課題の抽出を行った。

2. 名誉会員の称号授与

第 57 回定時社員総会の決定に基づき、梅原秀哲氏、金津努氏、壁谷澤寿海氏、栗田守朗氏、益尾潔氏、信田佳延氏の 6 名に名誉会員の称号を授与した。

3. 終身会員およびフェロー会員の表彰

令和 6 年度の終身会員 13 名、フェロー会員 12 名を認定し、会誌 2024 年 2 月号にて公表した。

4. 定款・規則改定委員会

令和 6 年度については、定款および工学会規則の改定はなかった。

5. 会員の動向

会員種別	令和 5 年度末 会員数	令和 6 年度中の異動			令和 6 年度末 会員数
		入会	退会	異動	
正会員	5,693	307	494	146	5,652
学生会員	410	228	81	-146	411
第 1 種団体会員	45	0	1	-	44
第 2 種団体会員	350	14	1	-	363
計	6,498	549	577	0	6,470

* 異動：学生会員から正会員への変更等

6. 役員の異動

(1) 退任

令和 6 年 6 月 18 日付で退任した役員は次のとおりである。

会 長 西山 峰広

副 会 長 大久保 孝昭，草野 昌夫

専務理事 入矢 桂史郎
理 事 五十嵐 浩行, 上野 敦, 笠井 浩, 兼松 学, 竹田 宣典, 津吉 毅,
西本 洋一, 橋本 親典, 濱田 秀則, 深瀬 孝之, 前田 匡樹,
宮澤 伸吾
監 事 鬼束 俊一

(2) 就任

令和6年6月18日付で就任した役員は次のとおりである。

会 長 前川 宏一
副 会 長 田中 久順, 野口 貴文
専務理事 入矢桂史郎
理 事 井上 真澄, 鹿毛 忠継, 河合 研至, 河野 進, 鈴木 澄江,
西本 洋一, 古田 満広, 松井 淳, 松本 慎也, 安本 礼持,
横関 康祐
監 事 上田 洋

以上